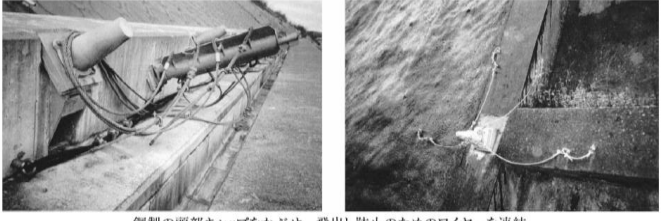



章	節	頁	行、図表等	誤	正
第1編					
1	3.4	30	図-解1.16(a) 注釈	※点検結果の評価 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される, D:アンカーの健全性に影響があると推測される	※点検結果の評価 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
参考編		36	図-参1.1 注釈	※点検結果の評価 A:健全 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される D:アンカーの健全性に影響があると推測される	※点検結果の評価 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
参考編		37	図-参1.2 注釈	※健全性調査結果の評価 A:健全 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される D:アンカーの健全性に影響があると推測される	※健全性調査結果の評価 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
第2編					
1	1.1	44	4)異常時の点検上から7行目	異常時点検	異常時の点検
1	1.1	44	4)異常時の点検上から14行目	異常時点検	異常時の点検
1	1.1	48	上から5行目	望遠鏡等を利用し、	望遠鏡、UAV等を利用し、
1	1.3	54	表-解2.3 注釈	注1)これらは目安であり、程度のひどいものについては1ランク高い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 A:健全 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される D:アンカーの健全性に影響があると推測される	注1)これらは目安であり、程度のひどいものについては1ランク低い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
第3編					
1	1.2	91	表-解3.4 調査・試験実施本数の目安の最下段	モニタリング用の計測装置が設置されたアンカー全数の5%かつ3本以上とする。	アンカー全数の5%かつ3本以上とする。
1	1.3	104	表-解3.6 注釈	注)これらは目安であり、変状の著しいものについては1ランク高い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 A:健全 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される D:アンカーの健全性に影響があると推測される	注)これらは目安であり、程度のひどいものについては1ランク低い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
1	1.3	115	表-解3.10 注釈	注)これらは目安であり、程度のひどいものについては1ランク高い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 B:アンカーの健全性に問題があると推測される C:アンカーの健全性に影響がある可能性が大きいと推測される D:アンカーの健全性に影響があると推測される	注)これらは目安であり、程度のひどいものについては1ランク低い評価を下すなどの判断が必要。ここに、 A:健全 B:アンカーの健全性に影響する可能性がある C:アンカーの健全性に影響がある D:アンカーの健全性に大きな影響がある
1	1.4	118	図-解3.56 凡例 →新_図-解3.56_凡例.pdf 参照		
1	1.4	118	(2)試験本数上から1行目	簡易維持性能確認試験本数の目安は、「第1編 3.4 アンカーの維持管理」の表-解1.6に示した	簡易維持性能確認試験本数の目安は、表-解3.4に示した
1	1.4	121	図-解3.57 →新_図-解3.57.pdf 参照		

章	節	頁	行、図表等	誤	正
参考編	参考3	141	上から3行目	例えば0地点では、ある範囲でアンカーの緊張力が増加していることが確認でき、	例えばL地点では中央から右側の範囲で、0地点では中央上部の範囲でアンカーの緊張力が増加していることが確認でき、
参考編	参考7	156	図-参3.60	図-参 3.60 鋼材の遅れ破壊の模式図	図-参 3.60 鋼材の遅れ破壊の模式図 ⁹⁾
参考編	参考7	156	下から3行目	1) 方法の原理 ⁹⁾	1) 方法の原理 ¹⁰⁾
参考編	参考7	157	上から8行目	2) 自由長部が弦と見なせることの実証 ¹⁰⁾	2) 自由長部が弦と見なせることの実証 ¹¹⁾
参考編	参考7	158	上から3行目	4) 推定方法の適用例 ¹¹⁾	4) 推定方法の適用例 ¹²⁾
参考編	参考7	158	下から3行目	(3) 光ファイバを用いたアンカーの緊張力計測技術 ^{12), 13)}	(3) 光ファイバを用いたアンカーの緊張力計測技術 ^{13), 14)}
参考文献		161	上から16行目	9) 斎藤秀樹, 青池邦夫, 八嶋厚, 山崎充, 宮澤敏孝, 曾根好徳: 振動を用いたグラウンドアンカー残存引張り力の推定方法, 土木学会第72回年次学術講演会講演概要集, pp.373-374, 2017. 10) 名波一輝, 八嶋厚, 村田芳信, 荻谷敬三, 斎藤秀樹, 青池邦夫, 曾根好徳, 高橋一徳, 山崎充: 実物大グラウンドアンカー模型による緊張力の非破壊評価実験 (1) -自由長部の固有振動周波数と緊張力の関係-, 第54回地盤工学研究発表会講演集, pp.1323-1324, 2019. 11) 斎藤秀樹, 山崎充, 八嶋厚, 名波一輝, 田住哲志, 村田芳信, 荻谷敬三, 青池邦夫, 高橋一徳, 曾根好徳: グラウンドアンカー頭部での自由長部の共振計測, 物理探査学会第141回(2019年度秋季)学術講演会講演論文集, pp.41-44, 2019. 12) 大窪一正, 今井道男, 中上晋志, 早川道洋: エポキシ被覆型光ファイバー組込み式PC鋼より線の開発と適用, プレストレスコンクリート工学会第26回シンポジウム論文集, pp.217-222, 2017. 13) 大窪一正, 今井道男, 戸邊勇人, 江口健二, 松本健太郎, 及川雅司, 中上晋志, 早川道洋: 光ファイバを用いたPC緊張力計測技術のグラウンドアンカーへの適用, 第73回土木学会年次学術講演会講演概要集, pp.817-818, 2018.	9) B. F. BROWN: Proc. Fundamental Aspects of Stress Corrosion Cracking, NRL Report 6041, p.398, 1969. 10) 斎藤秀樹, 青池邦夫, 八嶋厚, 山崎充, 宮澤敏孝, 曾根好徳: 振動を用いたグラウンドアンカー残存引張り力の推定方法, 土木学会第72回年次学術講演会講演概要集, pp.373-374, 2017. 11) 名波一輝, 八嶋厚, 村田芳信, 荻谷敬三, 斎藤秀樹, 青池邦夫, 曾根好徳, 高橋一徳, 山崎充: 実物大グラウンドアンカー模型による緊張力の非破壊評価実験 (1) -自由長部の固有振動周波数と緊張力の関係-, 第54回地盤工学研究発表会講演集, pp.1323-1324, 2019. 12) 斎藤秀樹, 山崎充, 八嶋厚, 名波一輝, 田住哲志, 村田芳信, 荻谷敬三, 青池邦夫, 高橋一徳, 曾根好徳: グラウンドアンカー頭部での自由長部の共振計測, 物理探査学会第141回(2019年度秋季)学術講演会講演論文集, pp.41-44, 2019. 13) 大窪一正, 今井道男, 中上晋志, 早川道洋: エポキシ被覆型光ファイバー組込み式PC鋼より線の開発と適用, プレストレスコンクリート工学会第26回シンポジウム論文集, pp.217-222, 2017. 14) 大窪一正, 今井道男, 戸邊勇人, 江口健二, 松本健太郎, 及川雅司, 中上晋志, 早川道洋: 光ファイバを用いたPC緊張力計測技術のグラウンドアンカーへの適用, 第73回土木学会年次学術講演会講演概要集, pp.817-818, 2018.

第4編

4	1.1	169	上から9行目	将来的に維持・補修(B-2)が想定される場合	将来的に補修(B-2)が想定される場合
1	1.3	173	図-解4.13 →新_図-解 4.13.pdf 参照		
1	1.3	174	図-解4.14 →新_図-解 4.14.pdf 参照		

章	節	頁	行、図表等	誤	正
1	1.3	175	表-解4.1 上から3段目、右から1列目	今後の維持管理を考慮して、頭部コンクリートを	テンドンに破断が確認されない場合には、今後の維持管理を考慮して、頭部コンクリートを
1	1.3	176	上から2行目	損傷部分をコンクリートで補修する。	損傷部分をモルタル等で補修する。
1	1.3	176	2) 頭部キャップ 1行目	頭部キャップがテンドンの破断によって破損した場合は、テンドンの破断原因を把握して、現在のアンカー性能を確認する。今後も、残りのテンドンが破断する可能性がある場合には、破断してもテンドンの飛出しや落下を防止する処置を検討する。	頭部キャップがテンドンの破断によって破損した場合は、テンドンの破断原因を把握して、破断したアンカーの周辺におけるアンカーの性能を確認する。今後も、破断したアンカーの周辺におけるテンドンが破断する可能性がある場合には、破断してもテンドンの飛出し及び落下を防止する措置を検討する。
1	1.3	176	2) 頭部キャップ 7行目	防錆油自体も劣化する。	防錆油自体の劣化が促進される
4	1.3	185	表-解4.2 下から1段目、右から1列目	許容アンカー力に近い場合は	許容アンカー力を超える場合は
1	1.3	186	表-解4.4 上から4段目、右から1列目	留意点：計画締め込み長さに対して部材長が十分であるかの確認を行う。	留意点：計画締め込み長さに対して部材長が十分であるかの確認を行う。 また、状況に応じてシムによる嵩上げを検討する。
1	1.3	186	表-解4.4 上から5段目、右から1列目	留意点：計画緩め長さに対して部材長が十分であるかの確認を行う。	留意点：計画緩め長さに対して部材長が十分であるかの確認を行う。 また、緊張力の一時的な除荷の可能性を検討する。
1	1.4	189	上から3行目	旧タイプアンカー等の防食機構を持たないアンカーでは	旧タイプアンカー等の防食機能を持たない可能性が高いアンカーでは
4	1.5	189	下から5行目	これが許容アンカー力を超えるとテンドン破断に至る危険性がある	これが許容アンカー力を大きく超えて、さらに増加が継続する場合は、テンドン破断に至る危険性がある
4	1.5	190	図-解4.29	 <p>鋼製の頭部キャップをかぶせ、飛出し防止のためのワイヤーを連結</p>	 <p>鋼製の頭部キャップをかぶせ、飛出し防止のためのワイヤーを連結</p>
4	1.5	191	上から7行目	アンカーの増し打ちや頭部排土等	アンカーの増し打ちやのり面頭部の排土等

健全度判定区分图

